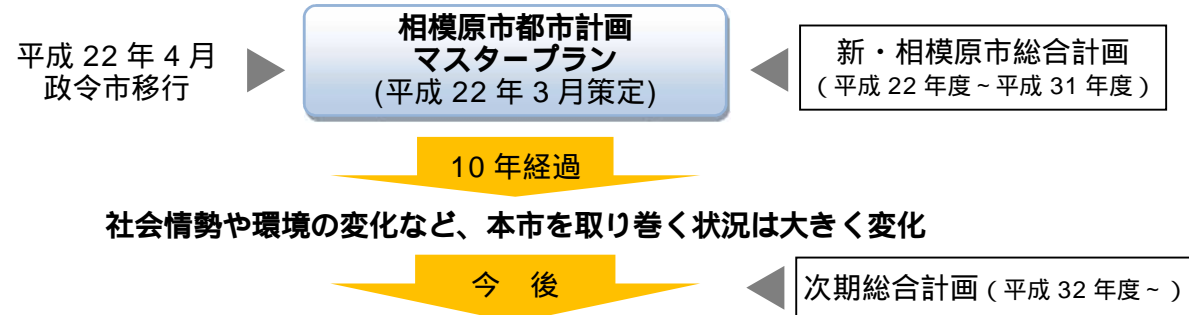


相模原市都市計画マスタープラン 全体構想 骨子(案) 概要版

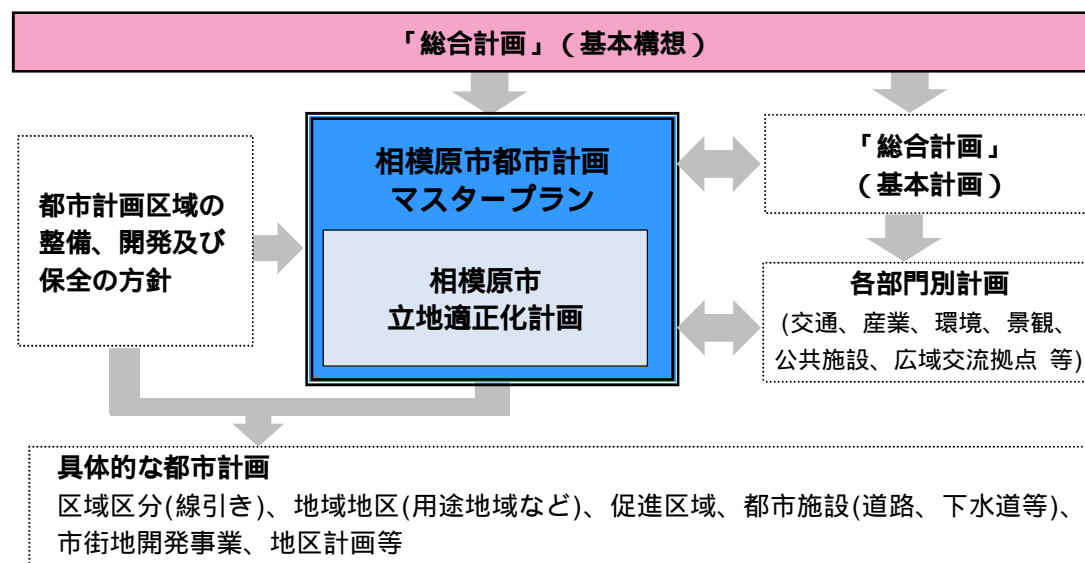
都市計画マスタープランの策定に当たって

計画策定の背景と目的



おおむね20年後までを見据えた、長期的な都市計画の基本的な方針を策定

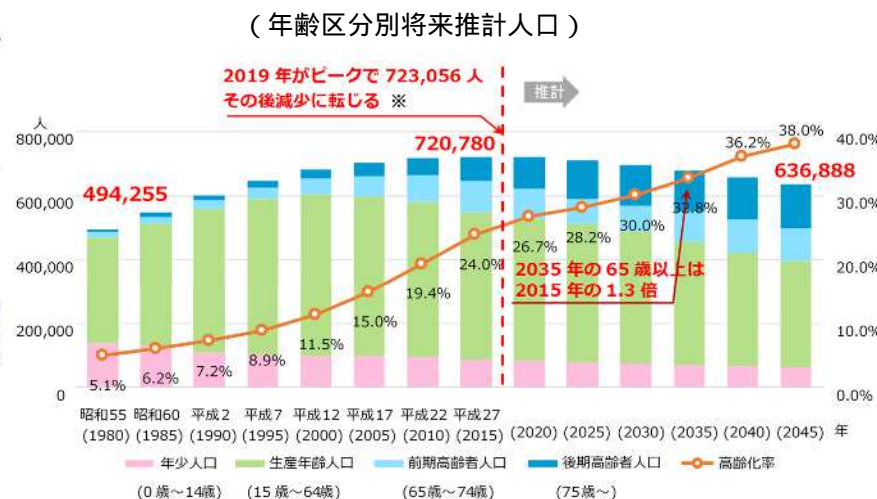
計画の位置付け



相模原市の概況

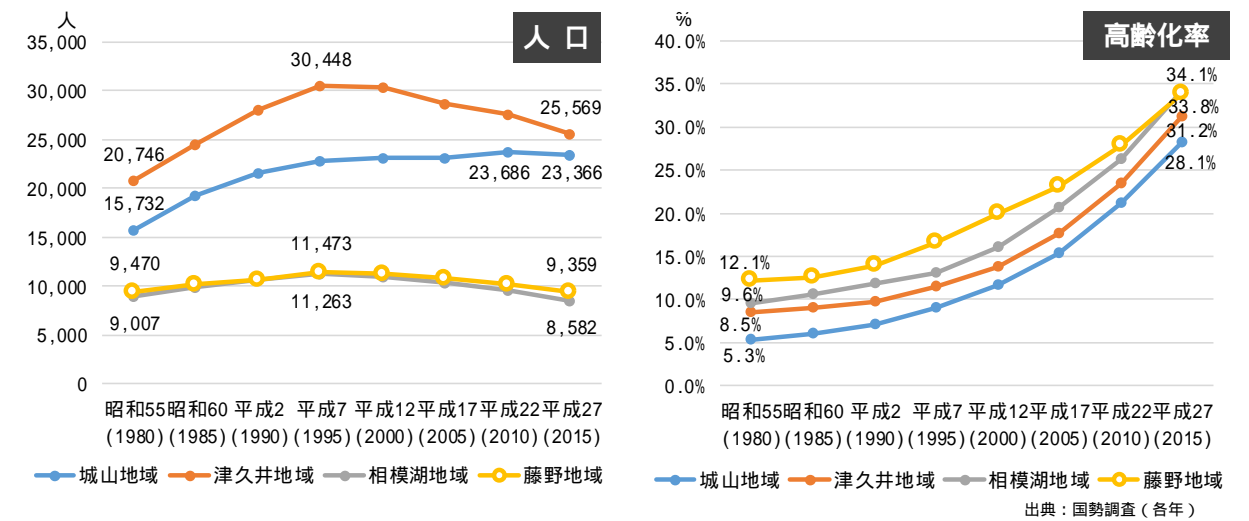
概況(人口)

- 総人口は、2019年の72.3万人をピークに減少に転じる見込み
- 2015年の20年後の2035年には約67.8万人となり、約4.2万人(約6%)の減少見込み
- 年齢別に2015年と2035年を比較すると、「生産年齢人口」は約7.2万人(約15.7%)の減少、「高齢者人口」は約5万人(約28.8%)の増加と、少子高齢化が進行する見込み
- 旧津久井4町の地域では、人口減少と高齢化が既に進行



出典：平成27年までは国勢調査、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所推計値(平成30年3月公表) 2019年の人口推計は、さがみはら都市みらい研究所推計値です。

(旧津久井4町の地域の人口と高齢化率の推移)



都市づくりの課題

| 社会的要因に起因する課題 | 本市の都市づくりの課題 |
|---------------------------|-------------------------|
| (1) 活力ある持続可能な都市づくりの推進 | (1) 活力と魅力あふれる都市の形成 |
| (2) 「環境共生・循環型の都市づくり」への転換 | (2) 日本の経済を牽引する多様な産業の振興 |
| (3) 「防災・減災社会」の実現 | (3) 恵み豊かな自然環境の保全・再生 |
| (4) 都市の個性や魅力を生かした都市づくりの推進 | (4) やすらぎと潤いがあふれる生活環境の形成 |
| (5) 都市経営の効率化や公共投資の重点化 | (5) 暮らしやすい住環境と魅力ある景観の形成 |
| (6) 多様な主体の参加による「協働」の都市づくり | (6) 災害に強い都市基盤と地域社会の形成 |

全体構想

1 都市づくりの基本理念と将来像

「(次期)総合計画」の基本構想に示される「基本理念」と「将来像」の実現に向けた都市づくりを進めます。

将来像(案)

『潤いと活力に満ち 笑顔と希望があふれるまち さがみはら』

2 都市づくりの基本目標

『活力と交流が新たな価値や魅力を創造するまち』

『人と自然が共生するまち』

『安全で安心な暮らしやすいまち』

『多様な主体との連携・協働により持続的に発展するまち』

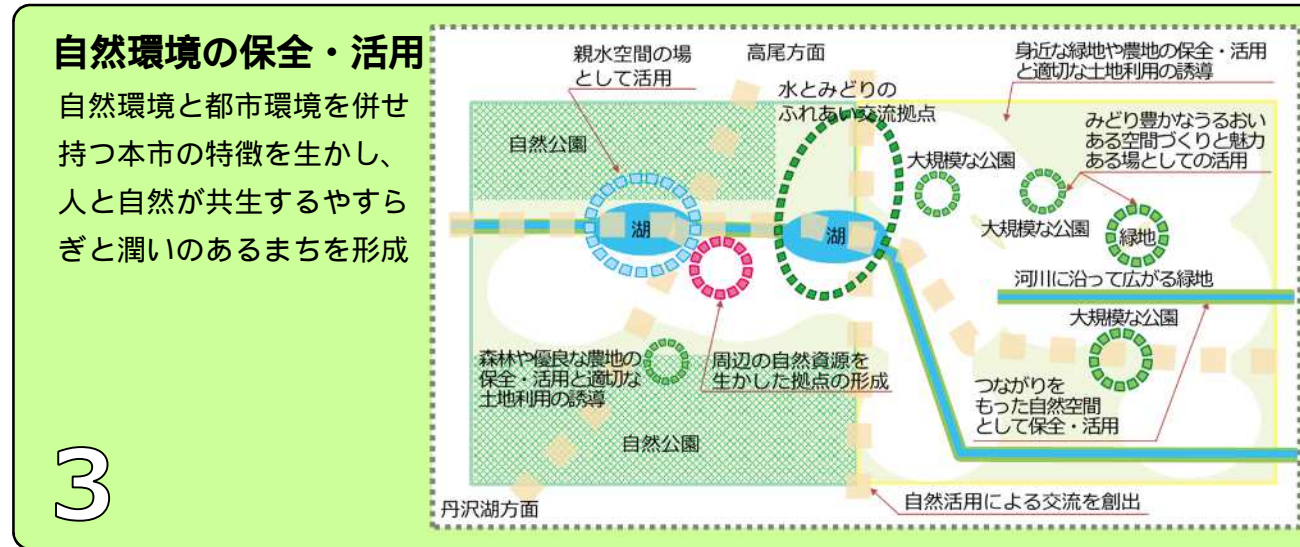
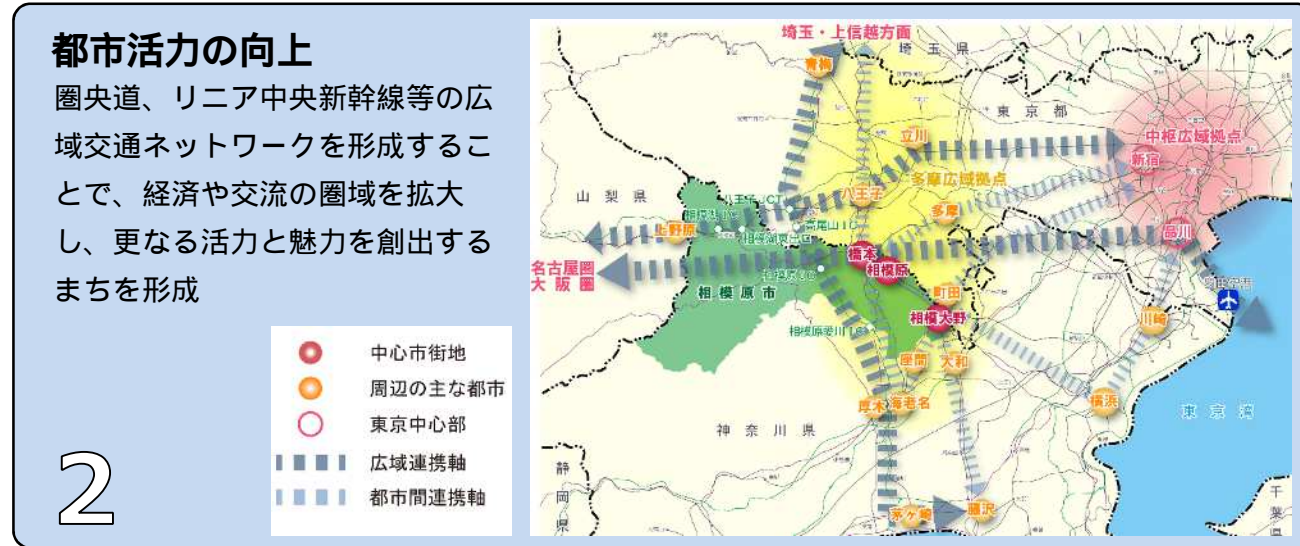
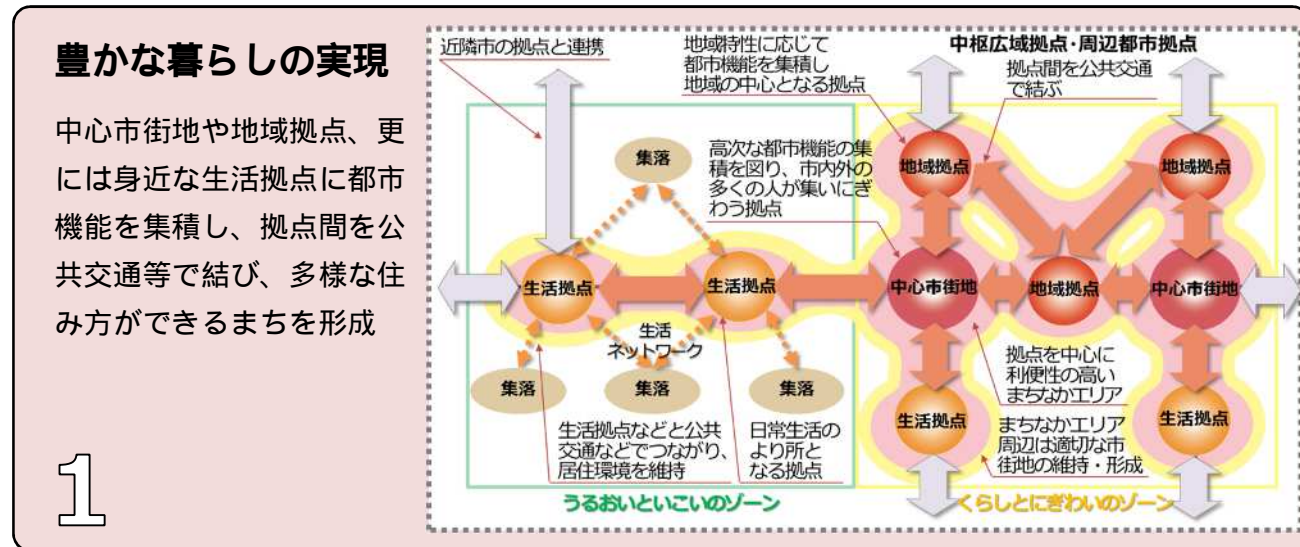
3 将来都市構造

将来都市構造は、「都市づくりの基本目標」の下、「ゾーン」「エリア」「拠点」「軸」の4つの要素により、将来の目指すべき都市のすがたを概念的に示すものです。

基本的な考え方

今後の人口減少や超高齢化の進行を踏まえ、人口動向、都市基盤の状況や交通ネットワーク、ライフスタイルに応じた、**社会情勢等の変化に柔軟に適応した集約連携型のまちを目指す。**
主要な軸が交差する都市として、豊かな自然資源を生かしながら、広域交流拠点の形成の推進や、リニア中央新幹線と他の交通ネットワークとの結節を通じて、
周辺都市との連携を図るとともに、国内外から本市へのアクセスの向上を図る。

将来都市構造を考える上で、次の3つの視点を反映します



将来都市構造図



今後の市民意見募集や次年度の計画策定に向けて、イラストデザイン等の整理を図ります